

2002年スタディツアー感想文

スタディツアーに参加して

今回ツアーに参加したことは、私にとって意義の深いものになった。

日本に帰ってきてから二週間以上過ぎるが、走馬灯のように思い浮かぶことがある。ナムの家のハルモニが、話し終えた後満面の笑顔になった瞬間。都羅山からの帰りの列車の中で、日本語が話せるおじいさんが、笑いながらとうもろこしをくれた瞬間。大学生が、にこにこしながら「日本、大好きです。」といった瞬間。私は、これらの瞬間を絶対忘れない。「今」を感じられる瞬間だった。日本と韓国には、消すことのできない辛い過去があり、良いことばかりではない。しかし、これらの「今」がある限り、未来は輝かしい光を射すことができると確信することができた。

私にできることは、いろんな人たちに見たこと、聞いたことを伝えることだ。それぞれが自分なりに考えてもらいたい。特に、子供たちにはしっかりと現実を見て欲しい。

私自身は、自分が韓国を知っているようで、何も知らなかったという不甲斐なさを感じた。また、韓国の人たちはエネルギーで、こちらの我がままにもとことん付きあってくれる情の厚さも知ることができた。訪れなければ、知らなかったことだろう。

韓国で、いろんな瞬間を共に過ごして下さった人々は 私に良い刺激を与えてくれた。明らかに私は韓国にはまったし、言葉、歴史を勉強しようという気持ちになった。みんなに出会えたことを 本当に感謝している。

多くの日本人にこのツアーに参加して、韓国の「今」を感じて欲しい。自分の目で、耳で感じたことが真実だからだ。

普段は、主観的にしか考えていなかったが、このツアーの6日間、客観的に自分という人間、日本人、日本という国を見つめることができた。この上ないツアーだったと思う。参加させて頂いて良かった。韓国が好きになったし、また行きたい。カムサハムニダ！

出会いと「知る」ことの大切さ

私が今回のスタディツアーで得たもの、それはたくさんのすばらしい人達との出会いと過去を「知る」という事の大切さでした。

私はこのツアーに参加するまで、日韓の歴史は学校の授業で習うような知識しかなく、正直なところ、特に興味もありませんでした。私の中で、戦争や従軍慰安婦問題は過去の出来事だったので。だから、韓国と日本の関係も過去を振り返るよりもこれからの未来の事を考えた方がいいのではないかと、ただ単純にそう思っていました。それは、私があまりにも歴史問題や韓国の人達について知らなすぎたからです。

ですが、独立門、刑務所記念館、歴史館とナヌムの家を実際に訪ねてみて、その気持ちは一八〇度変わりました。独立門では、歩いていたおじいさんに「日本と韓国は隣の国だし、これからは仲良くやっていかないといけない」と話しかけられました。刑務所記念館と歴史館・ナヌムの家の資料館では、日本にいと一生知る事がなかったような残虐な日本の歴史に直面しました。そして、ナヌムの家では実際にハルモニと会い、話を聞かせてもらい、帰る時には日本語で「また来なさいね」という言葉と共に、温かい笑顔で握手までしてもらいました。これらの経験は私にとって、簡単に言葉では表せないくらい衝撃的でしたが、客観的に日本について考えるいいきっかけになりました。

私は今回のツアーでたくさんの人と出会い、そして、韓国が大好きになりました。それはきっと、日本を好きでいてくれて、日本人である私達を友好的に受け入れてくれたからだだと思います。だから、私も韓国が好きになり、そして、韓国についてもっと知りたいと思いました。これからは、韓国がただの隣の国ではなく、友達のいる国になったから。でも、日本人として韓国と向き合うには、やはり日本の事もしっかり知る必要があると痛感しました。それは、これからの私の課題です。

このスタディツアーでは、たくさんの交流といろんな勉強も出来て、本当に充実した六日間を過ごす事が出来ました。個性豊かなメンバーが、より一層旅を楽しませてくれたとは思いますが、何よりもこのツアーを企画及び協力して下さい下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

韓国スタディツアーに参加して

私がこのツアーに参加しようと思った理由は二つあった。一つは、大学で歴史を専攻していたこともあり、日韓の歴史について関心があったからである。今回のツアーではそれに関する場所をいろいろと訪れたが、実際に現地に行って体験することによって、今まで「頭で知っていた」ことを「感覚も含めて本当の意味で理解する」ことができたように思う。

まずは、ナヌムの家である。初めは記念館を見学したが、そのなかでひととき私の目を引いたのは、ハルモニが描かれた、昭和天皇と思われる人物が銃殺されようとしている絵だった。私はその絵を見た時、ぎょっとした。太平洋戦争が終わって、最高責任者である天皇は処罰されなかった。普通に考えれば、最高責任者がものごとの責任を取るのが当然であろうし、だからハルモニの絵にもそのように描かれていたのだと思う。しかし実際は、戦後、天皇は権力を握ったわけではないが、象徴として日本のなかに存在したし、私も「天皇はどういう存在だと思うか」と問われれば、「象徴」と答えるだろう。しかし、天皇は戦前においては最高責任者であり、ハルモニをはじめ韓国の人達にとってはあの絵の中のような存在だったのだ。私は、日本はきちんと戦争や植民地の責任を取らなければならない

と思っていたが、実際に責任を取るといことはどういうことなのか、ハルモニの描かれた絵を見て、自らの考えが甘かったことを知らされた。

また、記念館見学の後はハルモニの話を聞かせていただいた。ハルモニは最後に「日本人は皆殺したいが、ここに来てくれた人達はそのように思わない」とおっしゃった。はじめは「日本人皆殺したい」とは穏やかではないなと思ってしまったが、よく考えてみると、普通日本人によってあのような行為をされたら日本人不信に陥り、「ここに来てくれた人達は・・・」とはとても言えないだろうと思う。話をされているハルモニを見ていて感じていたことでもあったが、人間の中の素晴らしい面の極限にある「真の強さ」を感じた。

そして独立記念館にはホームステイ先の方と行った。ここでは、展示されている植民地時代の資料の多さに圧倒された。私は、先にも述べたように歴史に関心があるので、昨年あたりから問題になっている日韓歴史教科書問題に関心を持っている。このツアーの前には、同じく互いに悲しい歴史があるドイツとポーランドにおける歴史教科書対話に関する本を読み、自らの歴史に反省的であるのはもちろんのこと、相手の立場から歴史を見ることが大切だと思っていた。そして、これまでも独立に関する施設を数多く見てきて、それだけ独立ということが韓国・朝鮮の人々にとって困難だったのであり、そのことに対する日本の責任は重いということを感じていたが、この独立記念館に展示されている資料の量を見たとき、はじめてはっきりと、相手の立場に立って歴史を見ることがどういうことなのか、頭で考えていたことを本当の意味で理解することができたと思う。

そのことに関して、最終日にハンシン大学の学生と日本の植民地支配について話をしている、「当時は日本の方が力が強かったので韓国は植民地にされてしまったが、もし韓国の方が力が強かったら、逆に韓国が日本を植民地にしていたかもしれないと思う」という意見を聞いて、韓国に相手の立場に立って歴史を見てくれる人がいて、今その人が目の前にいるんだと思うと、本当にうれしくなってしまった。

このツアーに参加したもう一つの大きな理由は、韓国の人と話したかったからである。そして、今回実際に韓国に行き、韓国の人と話し触れ合ったわけだが、その一つひとつが思い出深い。韓国の食堂では客と店の人が色々話しながら注文を取ったりしていたが、日本の完全にマニュアル化されてしまった接客とは違い、いいなあと素直に思った。また、韓国の人ストレートで率直な感情表現は新鮮であったのと同時に、なぜか郷愁ともいえる懐かしさを感じてしまった。都羅山からの帰りの電車でおばあさんやおじいさん達と話したのは良い思い出だ。そして、今回ツアーに共に参加してお世話になった韓国の人達は本当にやさしく、どうしてそんなにやさしいのかと聞きたくなるくらいだった。最終日にはカラオケに行ったり朝までホテルでしゃべったりと、修学旅行をしているように楽しかった。また会ってもっともっと話をしてみたい。本当にありがとう！

今回のツアーに参加して、改めて日本と韓国の人々がどんどん交流を活発にすることが必要だと思った。そして、私自身も韓国や韓国の人々と末永くつきあっていきたいと思ったツアーだった。